

〔第1部〕 のっぽろ幼稚園

I. 自己評価結果公表シート

No.1

1. 本園の教育目標

幼な子を独立した一人の「人格」と位置づけ、その幼な子には神によって与えられている、掛け替えのない生命、個性、賜物が内在しており、それらの賜物を内発的に生かし成長させる、というキリスト教幼児教育の基本的な理念に基づき、幼な子の全人的発達を目指す(キリスト教全人教育)。

具体的には、幼子の最初の社会体験となる幼稚園で「集団づくり」を大切に、「遊び」を通して自他の存在と区別を知り、自己肯定観を育て、他者と「共に生きる」生き方を学び、自由と規律、平和への思いを身に着ける。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

先年度末から新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐ保育が始まっているが、今年度は成り行きを見ながら『コロナ禍』での保育を充実させなければならない。

また今年度は新しい職員を迎えたので、教職員の研修・研鑽を積み上げて、教職員の共通理解を深めることにつとめたい。そして教師集団の質を高め、教職員のチームワークによる「全員保育」を展開する。また、保護者や小学校との教育連携、とくに幼小連携を強め、さらに子育て支援の一環としての「預かり保育」・「未就園児保育」の充実を目指す。

3. 評価目標の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解を図り、全員保育を推進する。	新教育要領の基本理念に鑑み、本園のキリスト教教育の使命の推進が肝要と認識し、理念のみならず、具体的な実践場面での展開について協議し、『のっぽろ幼稚園カリキュラム』に基づき実践を行う。
子ども子育て新制度へ移行したことについて。	施設型給付を受ける幼稚園への移行二年目となり、経営的にも見通しが持てるようになった。また移行したことにより、職員の処遇改善もできた。
教育の質の向上、連携強化のため、園内研修を継続して実施する。	長年の実績として、キリスト教保育の原点を理解し、金曜日の「礼拝」説教(全教師が担当)の聖句(聖書の箇所)を事前に研修するため、宗教主任(牧師)による「聖書研究」を続けている。 毎朝の職員朝礼では、一日の予定の確認、毎金曜日の「週反省」では、1週間におけるクラス経営の方針と反省、園児個別の問題点の報告・認識の共有を行い、そのことによって、「全員保育」が実践されている。

<p>幼小連携、異年齢交流、地域交流について、具体的な推進を図る。</p>	<p>幼小連携については、地元の若葉小学校との交流が停滞気味である。</p> <p>卒園児の入学先の教諭との引き継ぎも、年々充実してきている。</p> <p>異年齢交流では、とわの森三愛高校酪農経営科との「なかよしふぁーむ」は、コロナ禍のため今年度も中止となった。</p> <p>市内中・高生のキャリア学習、施設訪問も中止となった。</p>
<p>保護者のニーズ、要望や苦情に適切に応えるとともに、保護者との連携・協力を深める。</p>	<p>月刊園だより『こひつじ』、担任による『クラスだより』を発行し、報告、連絡を密にしている。</p> <p>メール一斉送信システムを採用し、緊急時の連絡に生かしている。特にコロナ関連の連絡に大変役立った。また、写真を添付して保護者に園生活の様子を見てもらうようにし、喜ばれた。</p> <p>ほとんどの行事が中止になったため、年長組については、クリスマス礼拝と卒園についての DVD を製作依頼し、各家庭にプレゼントした。</p>
<p>幼稚園の情報公開に努める。</p>	<p>『自己点検・自己評価』については、12年前より実施しているが、今回も『のっぽろ幼稚園自己点検・自己評価報告書(公表シート)』をまとめ、「事業報告書」と合わせて、ここに出版した。</p> <p>教育活動年度報告書『こひつじ』の発行は、通算46号(B5版、100ページ)となった。</p> <p>本園のホームページアドレス http://www.kids-nopporo.com</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

第三者による学校評価は課題であるが、まだ実施に至っていない。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
<p>安全管理</p>	<p>2002年度より、夜間警備をセントラル警備保障KKに委託し、2008年度には正面玄関に電磁ロック設備を設置、AEDを配備し、広大な校地の境界には2009年度にフェンスの設置、生垣の補植をし、環境整備をほぼ整えることができた。</p> <p>また、課題となっている『危機管理マニュアル』を今年度も完成させることができず、反省である。</p>
<p>特別支援教育</p>	<p>特別支援を必要とする園児が年々増加しているが、加配が必要でも補助金が不十分であることが悩みである。また、民間の療育施設が増え、園から直接行き来している子どもも多数いることから、更に保護者や各機関との連携を密にしていくことを心がけた。</p>
<p>本園に対する保護者・地域住民の期待・要望について</p>	<p>保護者からは保育方針についての理解を得て、関係も良好と思われる。地域からも騒音・駐車等についての苦情もなく、理解されているのは感謝である。冬季の排雪のために、駐車場を提供している</p>